

## 特集：国際学会参加報告

## 初めて国際学会に参加して

野水 美奈（筑波大学 生命環境科学研究科博士後期課程 2年）

私は、2008年7月21-26日にカナダ東部のHalifaxにあるDalhousie大学で開催されたProtist 2008 Conferenceに参加しました。これはInternational Society of Protistologists (ISOP), 59th Annual Meeting と International Society for Evolutionary Protistology (ISEP), 17th Meeting が合同で開催したもので、約200人のProtist (原生生物) 研究者の参加がありました。このうち約20人が日本人参加者で、日本でもProtistology (原生生物学) という新しい学問分野が急速に発展しつつあることがうかがえました。

隔年で行われるISEP Meetingは、小規模ながらユニークでレベルの高い発表が多く、非常におもしろい学会と聞いていたので、参加をとっても楽しみにしていました。また、世界の一流の研究者から自分の研究に対する評価・アドバイスを聞けると期待していました。しかし実際に参加してみると、口頭発表の大部分は理解できず、自身の研究発表に関しても、深いディスカッションをすどころか、質問にさえしっかり答えることができませんでした。

英語力の不足を痛感する国際学会初参加になりましたが、それでも、高い渡航費と貴重な時間を費やしてISEP Meetingに参加したことは、十分に価値があったと思っています。それは、いろいろなことを感じ考え、これまでと今後の自分を見直すきっかけとなるたくさんの刺激を受けたからです。活気に溢れた学会の雰囲気、学会を引っ張る若い研究者たちの姿、一流の研究者との交流など、私にとってはとても新鮮で刺激的なことばかりでした。

このようにたくさんの有益な刺激を受けることができたのは、好条件に恵まれていたからだと思います。第一に、カナダで研究している研究室の先輩や、以前、日本で知り合った海外の研究者が参加していたことです。国際学会に初めて参加した私にとって、大きな助けになりました。世界各地の多くの研究者を紹介してもらって、話をすることができました。第二に、この1年間で、計4回の国際交流プログラムに参加する機会があったことです。AsOBiNetプログラム(2007年11月、2008年3月) [注1]、日中大学院学生プレ・フォーラム(2008年3月) [注2]、そして学会直前に行われた内閣府国際青年育成交流事業「討議セッション」 [注3]に参加した経験のおかげで、尻込みせずに英語で話しかけることができました。また、比較的規模の小さい学会であったことも、たくさんの研究者と交流する上でいい条件だったと思います。さらに、かつてカナダ研究していた経験をお持ちの石田健一郎先生と行動の多くを共にさせていただいたことです。カナダの大学事情を教えていただいたり、日本とカナダの違いについて話し合ったことも、学会から受けたさまざまな刺激を自分なりに消化することに大いに役立ちました。今回の国際学会初参加は、得難い有意義な経験になったと思っています。

こうして振り返ってみると、単に研究発表や研究のための情報収集を目的として国際学会に参加するのは、もったいないと思います。特に学生のときには、前述のような好条件を生かして、積極的にいろいろなことを学ぶべきだと思います。しかし、いつもこのような「好条件」に恵まれるとは限りませんし、頼ってはいられません。対等にディスカッションできるだけ英語力を身に付けることや、論文という形で自分の研究成果を世に示すことが必要だと思います。そうしなければ、せっかくの国際学会というチャンスを十分に生かせないことを、この国際学会を通して痛感しました。

国際学会で発表することに「憧れ」を抱いてから約4年、この1年間は国際交流プログラムなどにも積極的に参加して英語力向上に努め、「国際学会で発表する」という目標をようやく達成しました。しかしこれは、単なる通過点にすぎないと、気を引き締めています。次の目標は、1年後に東京で開催される国際藻類学会「9th International Phycological Congress」です。今回の学会で得たやる気と反省を忘れずに、悔いの残らないよう努力したいと思っています。

## [注1] AsOBiNet プログラム

筑波大学生命環境科学研究科生物系3専攻が中心となって発足したAsia-Oceania Biology Student Network (AsOBiNet)による国際交流プログラム。私が参加した2回のAsOBiNetプログラムでは、タイ、ベトナム、中国の学生と研究・文化交流を行った。

## [注2] 日中大学院学生プレ・フォーラム

第1回日中大学院学生フォーラム(2008年10月開催予定)に先駆けて行われたフォーラム。筑波大学生命環境科学研究科の学生と中国北京市内の6大学1研究所の学生が参加した。

## [注3] 内閣府国際青年育成交流事業「討議セッション」

内閣府による青年対象の国際交流プログラムの一つ。日本青年と世界11カ国から招へいされた海外青年が、6分野(企業の社会貢献、教育、環境、情報・メディア、伝統文化、ボランティア)に分かれて意見交換を行う。私は環境コースに参加した。

Communicated by Isao Inoue, Received September 24, 2008.